

『小手先の栄養管理じゃなく 臨床栄養学を勉強して欲しい!』

6月が終わると、2024年の半分が過ぎたことになりました。この半年、何か建設的なことができたかなあと反省しながら過ごしています。この歳になれば、大きな仕事をできるはずはないのですが、なんとなく・・・まだ、何かできるのではないかと思ったり、です。

大学の講義は、臨床医学と臨床栄養学。臨床医学でも栄養管理に関係ある内容を説明しているので、臨床栄養学とダブったりしているような気がします。どっちの講義で話したのか、わからなくなっています。ダブってても学生は気づかない？卒業研究は行き詰っています。ヒトを対象とする研究だということで、倫理委員会の許可が出ません。この研究に倫理委員会が必要？と思ったりしていますが、私の書き方がまずいのでしょう。いろいろチェックを入れられて、調査を開始できません。でも、学生のために、倫理委員会も通します。

6月6日は4年生の臨地実習報告会。病院などでの実習でどういう経験をしたかの発表。病院での実習では、私の講義が役に立ったと報告してくれた学生がいた、というか、私が「役に立ちましたか？」と質問しました。盛り上げてしまいました。聴講していた3年生に「臨床医学、臨床栄養学の講義は大事、役に立つ」と押し付けたような感じになりましたが・・・本当に、そうなんですよ。

6月8日はPENの会：研修医臨床栄養教育セミナー。西口先生を中心として始まった会ですが、我々は高齢になったので顧問となり、玉森先生たち、若手で運営しています。講義＋症例検討、PEGとPICCのハンズオンセミナーが主な内容。いろいろ工夫しています。参加者の定員は50人までとしていますが、今回の参加者は35人。もったいない！（昨年も同じことを言いました。今年よりもっと少なかった。）最初に臨床栄養に関する試験。出来は？全部、私が採点しました。特に、用語の出来が悪くて、少々驚きました。もっと大学で臨床栄養学を教育してほしいものです。本当に大事なことです。

6月15日には愛媛県八幡浜市へ。西宇和郡伊方町立伊方中学校3年1組の同窓会に出席するためです。中学校卒業後55年、70歳記念です。今回はJRで往復しました。ジバング倶楽部の会員になっているので、ちょっとお安くなります。「ひかり」で岡山へ行き、特急「しおかぜ」で松山へ。松山で特急「宇和海」に乗り継いで八幡浜へ、の予定でしたが、ふと気が変わって、松山から各駅停車に乗って下灘駅経由で八幡浜へ行くことに変更。各駅停車で、のんびり海を見ながら、駅弁を食べて・・・思ったのですが、乗ると、満席。弁当を食べる余裕などありません。がっかり！しかし、下灘駅でほとんどの乗客が降りて、列車内はガラガラになりました。ほとんどの乗客は下灘駅が目的だったのです。おかげで駅弁もゆっくり食べることができました。八幡浜駅へ着いたら、駅の近くにある八幡浜高校へ行ってみました。卒業以来、初めて。なつかしかったのですが、雰囲気も変わっていたし、あまり感動しなかったのが自分でも意外でした。市内の商店街を歩いて（人通りはほとんどなし）、なつかしのちゃんぽんのお店「ロンドン」でちゃんぽんを食べました。弁当も食ったし、18時から同窓会なのに。暑い日で、汗だくになってホテルに入



↑千里金蘭大学の庭の手入れの様子です。こういう風に剪定していたのです。知りませんでした。土曜日、9階の窓から下を見ていた時、その様子を見つけました。こんなに丁寧に手入れをしていた結果、きれいに維持できているのですね。



↑山の中腹にある大阪青山大学からの眺めはすばらしい。大阪平野の全貌を見ることができます。千里金蘭大学の9階からの眺めもすばらしいのですが、大阪青山大学からはもっとすばらしい！



↑岡山から特急で愛媛に入り、松山へ。松山からも特急の予定でしたが、ふと思いついて各駅停車で遠回りしました。下灘駅が、この辺りで一番人気の観光地になっているのでしょうか。赤字路線のJR予讃線です。愛媛に旅行に行ってください。

岡山から特急「宇和海」に乗り継いで八幡浜へ、の予定でしたが、ふと気が変わって、松山から各駅停車に乗って下灘駅経由で八幡浜へ行くことに変更。各駅停車で、のんびり海を見ながら、駅弁を食べて・・・と思ったのですが、乗ると、満席。弁当を食べる余裕などありません。がっかり！しかし、下灘駅でほとんどの乗客が降りて、列車内はガラガラになりました。ほとんどの乗客は下灘駅が目的だったのです。おかげで駅弁もゆっくり食べることができました。八幡浜駅へ着いたら、駅の近くにある八幡浜高校へ行ってみました。卒業以来、初めて。なつかしかったのですが、雰囲気も変わっていたし、あまり感動しなかったのが自分でも意外でした。市内の商店街を歩いて（人通りはほとんどなし）、なつかしのちゃんぽんのお店「ロンドン」でちゃんぽんを食べました。弁当も食ったし、18時から同窓会なのに。暑い日で、汗だくになってホテルに入

り、すぐにシャワーを浴びました。それから、海岸を散歩して、同窓会へ。14人が集まりました。懐かしい顔でしたが、腰が痛い、膝が痛い、こんな病気をした、そんな会話と昔話でした。翌朝は午前7時10分の特急宇和海で松山へ。この列車は「アンパンマン列車」。松山で乗り換えたのですが、それも「アンパンマン列車」。岡山駅に到着したら、高知行の特急が停車中。これも「アンパンマン列車」でした。

6月17日、19日、24日、26日、箕面市にある大阪青山大学へ講義に行きました。栄養アセスメントについて、2クラスで2回ずつ講義しましたが、興味を持って受講してくれた学生はいたのか、いなかったのか？大学の講義室からの眺めは抜群で、千里金蘭大学の9階からよりも、はるかに大阪の景色が見渡せました。景観は、完全に負けた！という感じがしましたが・・・。

6月22日は第27回関西PEG・栄養とリハビリ研究会。会長は滋賀県草津市の松本胃腸科クリニックの松本啓一先生。演題数は8題、中身の濃い発表ばかりで、いい議論ができました。特別講演は神奈川県立こども医療センターの北河徳彦先生。「小児における胃瘻管理～730例の造設経験で学んだ工夫とトラブル対応、ミキサー食注入について」、非常に興味深い講演を拝聴しました。私は、研究会として実施した胃瘻に関するアンケート調査結果を発表しました、代表世話人として。私のゼミの学生6人が参加してくれました。勉強になったかな？最終的には参加者は101人。少ない！胃瘻と経腸栄養に関する興味、栄養管理そのものに対する関心が日本全体として低くなっているのでしょうか。困ったことです。



↑岡山からは特急「しおかぜ」で瀬戸大橋を渡りました。新居浜⇒西条⇒今治⇒松山⇒大洲⇒八幡浜です。今治駅には、一時、政治的に話題になった岡山理科大学獣医学部の看板がありました。



↑JR 松山駅です。「松山驛」との古い駅舎名がいいですね。「春や昔 十五万石の城下かな：正岡子規」の石碑、なんか、いいなあ。味わい深いものがあります。



↑JR 松山駅から下灘駅を経由する路線は「愛ある伊予灘線」と呼ばれているとのこと。いい雰囲気です。瀬戸内海を見ながら走るのです。列車も1車両でした。私は、いつもは車で帰省しているので、列車で下灘駅を通るのは初めてでした。なかなか味わい深い旅となりました。

←JR 松山駅からの「愛ある伊予灘線」は、上の写真のように満席でした。駅弁を食べる雰囲気ではありませんでした。しかし、JR 下灘駅でほとんどの乗客が降りて、下の写真のようにガラガラになりました。だから、その後の八幡浜駅まではガラガラで、駅弁を食べながらのんびりすることができました。八幡浜駅まで乗っていたのは私一人でした。いい旅ですよ。愛媛に行ってください。



ゼン先生：6月といえば梅雨なんですけど、今年の梅雨は、例年より遅かったようです。近畿の梅雨入りは20日過ぎでした。

小越先生：その分、暑かったんじゃないか？

ゼン先生：そうですね。6月なのに、北海道の北見が35℃なんという日がありました。もちろん、群馬県の前橋や大分県日田市など、ものすごく高い気温を記録していました。

小越先生：本当だなあ。6月とは思えないような気候になってしまったな。日本は亜熱帯気候か？

ゼン先生：本当です。魚の分布が変わってきているようです。

小越先生：それは、大問題だ。

ゼン先生：そうそう。前回、道を歩いている時にカラスに威嚇されたと言ったでしょう？

小越先生：写真の説明で言っていたな。

ゼン先生：あれ以来、なんとなく気持ちが悪くて、昼間でも傘を差して歩いています。

小越先生：へええ、日傘か？日差しが強くて暑いから、それもいだろう。

ゼン先生：雨の日は雨傘、晴れの日の日傘です。雨の日はカラスは飛んでこないんですが、晴れていたらカラスの鳴き声がうるさくて、また飛んでこられたらいやだなと思ひまして。

小越先生：意外とデリケートなんだな。見かけによらず。

ゼン先生：そういうことではなくて、先生だってイヤでしょう？カラスが頭の上に留まったりしたら。

小越先生：そりゃあイヤだよ。

ゼン先生：だから、ちゃんと予防しているんです。

小越先生：そうか。気持ちはわかるよ。

ゼン先生：私が住んでるところは、一応、都会なんです。でも、イノシシも出るし、ハクビシンも出るんです。その上、カラスに威嚇される、なんというところなんでしょう。

小越先生：本当だ。熊が出ないだけ、いいんじゃないか？ところで、6月も愛媛に帰省したんだって？

ゼン先生：はい。中学校の同窓会がありました。

小越先生：へええ、中学校の同窓会か。卒業後50年以上だろう？顔と名前が一致しない人もいたんじゃないか？

ゼン先生：そうですが、すぐに思い出しました。

小越先生：楽しい時間だったんだろう？

ゼン先生：そうですね。懐かしくて、いろいろ話ことができました。でも、身体のどこかにガタが来ている人がほとんどで、病気の話、やれ腰が痛い、膝が痛い、そんな話が多かったです。

小越先生：いろいろ相談されたんじゃないか？

ゼン先生：膝や腰はわからない、と正直に答えておきました。

小越先生：それがいい。医師だからと言って、変に、知ったかぶりはしないほうがいいよ。

ゼン先生：もちろんです。それより、行き帰りはJRにしたので、いろいろ、面白い旅でした。

小越先生：それはよかった。車で帰ったら、また、パンクした



↑ JR 下灘駅です。もちろん、私も行きました。今回ではありませんよ。5年ほど前、車で行きました。



↑ JR 下灘駅です。ほとんどの乗客が降りました。観光地として大人気です。「愛ある伊予灘線」は、下灘駅行きの路線なんです。松山から八幡浜まで「愛ある伊予灘線」を使う人はほとんどいません。終点の八幡浜駅まで乗っていたのは私だけでした。特急なら1時間ですが、「愛ある伊予灘線」を使うと2時間かかりますので。



↑ 肱川と大洲城です。これもいい景色です。

かもしれないからな。

ゼン先生：ちょっと心配だったかもしれませんが、電車？いや、汽車旅行を味わいたかったんです。

小越先生：汽車？電車ではなくても、ディーゼルだろう？

ゼン先生：多分。とにかくエンジョイしました。卒業した八幡浜高校へ、駅の近くなので行きましたが、あまり感動しませんでしたね。高校の時の下宿があった所へも行ったのですが、もう、すっかり様変わりしていました。

小越先生：高校を卒業して50年だろう？当然だよ。

ゼン先生：高校の下宿のおばあちゃんのことは、思い出すとなつかしくなります。

小越先生：どんな思い出があるんだ？

ゼン先生：いいおばあちゃんでした。友達がたくさん、よく私の下宿に来ていました。私はその頃はたばこは吸わなかったのですが。

小越先生：高校生なんだから当然だ。

ゼン先生：友人達は結構たばこを吸ってましてね。窓を開けて吸っていたので、たばこの煙を、警官が見つけたそうで。昼間、警官が下宿に来て、おたくの学生、高校生なのにたばこを吸っているんじゃないですか、と言ったそうです。

小越先生：それで、どうなったんだ？

ゼン先生：その警官に、あんたも若い頃はたばこを吸っていたんじゃないか、細かいことを言いなさんな、と説教して帰らせたそうです。

小越先生：すばらしい。いいおばあちゃんの所に下宿していたんだな。

ゼン先生：そうなんです。だから、高校の思い出の一つとして、あの下宿は忘れられません。

小越先生：そうか。とにかく、いい同窓会だったんだな。高校の話をしているけど、会場が高校のあった八幡浜市で、中学校の同窓会だったんだよな。

ゼン先生：そうです。中学校がある伊方町には、同窓会をするようなお店がないので、八幡浜市での開催だったんです。

小越先生：そういうことか。楽しい会でよかったな。

ゼン先生：はい。生きていたら、2〜3年後にまた同窓会をやろう、と話しました。

小越先生：ははは。生きていたら、か。

ゼン先生：70 歳を超えたら、何が起ころうともおかしくありませんから。

小越先生：そりゃそうだ。ところで、6 月は臨床栄養に関する仕事はしなかったのか？

ゼン先生：「関西 PEG・栄養とリハビリ研究会」と「研修医向け臨床栄養セミナー」には参加しました。

小越先生：セミナーと研究会か。その関西 PEG は、もう何回目なんだ？

ゼン先生：コロナの時は開催できませんでしたが、今回で 27 回目です。

小越先生：へええ、もう 27 回か。確か、1995 年に始まったんだっただな。

ゼン先生：そうです。日本で一番古い PEG の研究会です。私が 2 代目の代表世話人なのですが、代表になってからもう 20 年近くになります。そろそろ次世代へと思っているんですけど。



↑ JR 八幡浜駅です。いい雰囲気です。みかんと魚の町、八幡浜です。ここで高校時代の 3 年間、過ごしました。



↑ 八幡浜市はちゃんぽんで有名です。中でも、このロンドンのちゃんぽんは有名です。駅弁を食べたのは午後 2 時、このちゃんぽんを食べたのは午後 3 時、そして、午後 6 時から同窓会で食事会でした。



↑ 八幡浜市の商店街、アーケードがあります。新町商店街と矢野町商店街です。人通りが全くありませんでした。右端は、世界で初めて飛ぶことができる飛行機を発明した、二宮忠八翁生誕の地の碑です。



↑ 八幡浜市は漁港として有名で、森進一の「みなと町ブルース」に出てきます。しかし、八幡浜が出てくる歌詞は 4 番目なので、ほとんどの場合、省略されます。だから、あまり知られていないのです。かつてはトロール漁船で有名だったのですが、今は、トロール漁船はほとんどいなくなっているとのこと。魚市場「どーや市場」は賑わっていました。

小越先生：研究会は盛り上がったのか？

ゼン先生：いやあ、参加者が増えませんか。今回は 100 人ほどでした。昨年が 160 人だったので、さらに減りました。

小越先生：胃瘻・経腸栄養に興味がなくなっているんじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれません。大事なことなんですけど。今回は、神奈川県立こども医療センターの北河先生に、小児の胃瘻とミキサー食に関する講演をしてもらったんですけど。こどもの領域の人は、ほとんど来てくれていなかったんじゃないかなあ。あ、北野病院の小児外科の佐藤先生が来ていました。

小越先生：もったいないなあ。いい話だったんだろう？

ゼン先生：もちろんです。非常に有意義な内容でした。一般演題も、非常にいい内容ばかりで、議論も盛り上がりました。なのに、参加者が少ない。困りますね。

小越先生：いろんな臨床栄養に関する研究会が尻すぼみになっているようだな。

ゼン先生：本当にそうですね。胃瘻の研究会だけではなくて、NST の研究会も、消滅しているものも結構あるようです。

小越先生：診療報酬で栄養に重点が置かれているという話はあるが。

ゼン先生：それは、高齢者、寝たきりの高齢者、認知症、そんな患者さん達に対するもので、表向きは、たとえばフレイルを予防する、サルコペニアを予防する、なんですけど、なんとか栄養を投与しておけばいい、みたいなものだと私は感じているんです。前回の会話でも、こんな話をしました。

小越先生：そうだったな。なぜ、こんなことになったんだろう。

ゼン先生：やっぱり、医師に原因があると思います。医師が臨床栄養に興味がないんです。その原因は、医学部における臨床栄養教育だと思います。

小越先生：やっぱりそこに原因がある、となるのか。

ゼン先生：残念ですが、そうですね。6 月 8 日に開催した研修医向け臨床栄養セミナーで大学での臨床栄養教育に関するアンケートをしました。

小越先生：そうか。どういう結果だったんだ？

ゼン先生：栄養評価について、静脈栄養について、経腸栄養について、講義はありましたか？

小越先生：なるほど。具体的だな。

ゼン先生：あったとの回答が 3 割、残りは、なかった、または、覚えていない、でした。

小越先生：講義があったのが 3 割か。予想より多かったんじゃないか？

ゼン先生：確かに、そうですね。覚えていないは「なかった」としてもいいと思いますが。もっと少ないと思っていました。

小越先生：まあ、そうだろう。

ゼン先生：あと、SGA、アルブミン、TPN の適応、PPN の実施方法、PPN と TPN の輸液など、説明を聞いたことがあるか、と



↑ 八幡浜市はマーマレードで有名なだそうです。このポストのオレンジ色はマーマレード色。ダルメイン世界マーマレードアワード & フェスティバルが八幡浜市で開催されたのを記念して、とのこと。



↑ JR 松山駅のホームはアンパンマン、アンパンマンです。アンパンマンキャラクターだらけです。



↑ ゴミ箱もアンパンマンです。八幡浜駅にもアンパンマンのゴミ箱がありました。

質問してみました。

小越先生：それも面白い質問だが。

ゼン先生：アルブミンと中心静脈カテーテル挿入方法は、説明を聞いたことがあるという回答が多かったのですが、ほかは、3 割から 4 割というところでしょうか。

小越先生：そんなものだろう。

ゼン先生：時代は違いますが、自分もどうだったんだろうと振り返ると、覚えていない、なんじゃないかと思います。

小越先生：大事なことは、現場に出た時に自分で勉強することだ。医師なんだから、自分で勉強すればいいんだよ。

ゼン先生：その通りです。このセミナーでは、最初に臨床栄養に関する試験をするんです。○×が 34 問、略語の意味や英語を書く問題が 16 問です。

小越先生：○×の成績はまあまあなんじゃないか？

ゼン先生：その通りです。「栄養不良により免疫機能が低下し、創傷治癒が延長する」は、もちろん、○なんですけど、正解率は100%でした。

小越先生：それは当然だろう。常識だよ。

ゼン先生：「栄養補給を行う場合、消化管が安全に使用できれば経腸栄養を行うべきである」。これも正解率は約95%でした。

小越先生：それも、常識になっているだろう。

ゼン先生：「トランスサイレチンやレチノール結合タンパクは最近1か月間の比較的長期の栄養評価に適している」これは×ですが、正解率は約3割でした。

小越先生：トランスサイレチンやレチノール結合タンパクか。知らないんだろう。教えてもらってないんだろう。

ゼン先生：「タンパク質はジペプチドでは吸収されず、アミノ酸となって初めて小腸から吸収される」の正解率は25%でした。

小越先生：ジペプチドを知らないんじゃないか？

ゼン先生：そうなんですかねえ。いわゆる消化態経腸栄養剤の吸収について勉強していたら、わかりますよね。

小越先生：そんなことは話題にもならないだろう。まあ、○×問題は、内容を知らなくても、正解率は50%前後になるだろうから、あまり信頼できる方法ではないけどな。

ゼン先生：そうですね。だから、記述式の、略語の問題のほうがレベルを確認しやすいと思っているんです。

小越先生：その通りだ。

ゼン先生：略語の正解率は、本当にひどかったとしか言えません。本当に、何も知らないのか？と感じました。

小越先生：英語はだめでも日本語では書いているだろう？

ゼン先生：そうでもないんです。TPNとPPNの正解率は34%、ENは14%、PEGは46%、PICCは8.6%でした。日本語での回答です。

小越先生：日本語でもそんなに低いのか。ENが14%というのはちょっと寂しいなあ。

ゼン先生：先生もそう思われますか？

小越先生：思うよ。TPN、PPN、ENくらいはちゃんと知っていてほしいものだ。英語で。

ゼン先生：RTP、TSF、NPC/N比、ED、RTH、TLCは正解者はいませんでした。BEEとIBWは一人だけ正解でした。

小越先生：やっぱり、レベルが低すぎるな。日本語でも書けないのか。EDもゼロ？誰も知らない？

ゼン先生：エレンタールという経腸栄養剤は知っていると思いますよ。でも、エレンタールが成分栄養剤で、英語ではelemental diet、略語はEDというのを知らないんだと思います。

小越先生：エレンタールは使ってくれているんだろうか。



↑アンパンマン列車です。特急「宇和海」「しおかぜ」で八幡浜駅から松山駅経由岡山駅へ。列車の外だけでなく、車内、天井にもアンパンマンです。



↑JR岡山駅にアンパンマン列車で到着すると、ホームにもアンパンマン列車。高知行きの特急「南風」です。予讃線の列車の色と土讃線の列車の色が違います。アンパンマンの生みの親、やなせたかしは高知県生まれ。だから、列車の色が違うのでしょうか。アンパンマンミュージアムの本店も高知にあります。

ゼン先生：使うというか、処方しているだろうし、エレンタールという製品は知っていると思います。

小越先生：EN が経腸栄養の略語だと知らないのにか？

ゼン先生：EN と経腸栄養がつながらなくても、エレンタールという製品は知っていると思います。

小越先生：そうか。まさか、小越章平先生がエレンタールの開発者とは知らないだろう。

ゼン先生：どうでしょう。私は千里金蘭大学でエレンタールの開発者は小越章平先生だ、小越章平先生の名前は覚えておくように、試験に出すから、と教えています。

小越先生：素晴らしい講義をしているじゃないか。

ゼン先生：そうでしょう？

小越先生：まあ、それはうれしいことだが。PICC はどうだったんだ？

ゼン先生：日本語で末梢挿入型中心静脈カテーテルと記載していたのは35人中、3人でした。末梢挿入式じゃなくて、末梢挿入型としていたのは気に入らないんですが。

小越先生：そんな細かいことはどうでもいいが、たった3人？ PICC のハンズオンセミナーをしたんだろう？

ゼン先生：だから、PICC というのは、腕から挿入するカテーテルだとはわかっているのでしょう。でも、正式名称は知らない、そういうことなのでしょう。

小越先生：まあ、そう言われたらそうなんだろう。

ゼン先生：PEG も同じです。経皮内視鏡的胃瘻造設術と書いていたのはほとんどいなかったんですが、胃瘻と書いていたら正解としたので、正解率は46%と高かったんです。

小越先生：高くはないが、PEG の正解率が高すぎると思っていたんだよ。胃瘻と書いていたら正解か。甘すぎるな、採点が。

ゼン先生：そうしなければ、正解率はほぼゼロです。

小越先生：残念なことだけど。それじゃあ、percutaneous endoscopic gastrostomy と書いた研修医はゼロなんだろう？

ゼン先生：そうです。ゼロです。

小越先生：それじゃあ、total parenteral nutrition、peripheral parenteral nutrition と書けた研修医もいなかったんじゃないか？ いなかったはずだ。

ゼン先生：実は、一人だけいました。

小越先生：そうか。一人いたのか。

ゼン先生：はい。その研修医は総合点も一番良かったので、セミナーの最後に褒めてやりました。彼は、このセミナーの代表世話人をしていて、和泉市立総合医療センターの玉森先生の指導を受けていて、玉森先生に勉強しておけと言われていたと言っていました。

小越先生：なるほど。こういう問題が出るから、と教えられていたのかもしれないけど、とにかく、ちゃんと TPN も PPN も英語で書けていたんだな。

ゼン先生：そうなんです。



↑ 第27回関西 PEG・栄養とリハビリ研究会です。発表も濃い内容だったのですが、質疑応答も非常に濃いものでした。



↑ 参加者は100名ほどでした。特別講演の北河先生と会長の松本先生です。右は、研究会に参加した、井上ゼミの学生と一緒に撮った写真です。

小越先生：素晴らしい。まあ、よく考えると、褒めるほどのことではないけどな。

ゼン先生：そうかもしれませんが。私、35人分の採点をして、あまりに出来が悪かったのが、この研修医が目立ったんです。

小越先生：時々、臨床栄養学を勉強している研修医もいるな。

ゼン先生：いますね。もう、ずいぶん昔の話で、TNT を積極的に実施していた時、目立つくらい成績が良かった研修医がいました。本当に少数ですが。

小越先生：自分で興味を持って勉強したんだろう。それか、栄養は大事だから、研修医の時に勉強しておくべきだと指導した医師がいたのかもしれない。

ゼン先生：そういう指導医がいればいいのですが、いなくなっているんじゃないでしょうか。

小越先生：指導医がいないか。それは大事な話だな。

ゼン先生：実は、そこが一番大事かもしれません。

小越先生：そうだな。若い医師達に、臨床栄養の重要性を伝えてくれる指導者がたくさんいたらいいのに。

ゼン先生：それがいないんですよ。だんだんいなくなっているんだと思います。それから、○×の問題はそれなりにできているのに、用語の出来はむちゃくちゃ悪い。おそらく、目の前の栄養管理に関しては見様見真似でなんとかなるのかもしれませんが、いわゆる臨床栄養学という学問が全くダメになっているんじゃないでしょうか。

小越先生：なるほど。臨床栄養学という学問か。

ゼン先生：そうです。それは、大学として、ちゃんと学問として教える必要があると思うんです。

小越先生：確かに、そうだな。学問としての臨床栄養学か。オレ達はそう考えて、医学部内に臨床栄養学という学問を根付かせたいと思っていた。それなのに、医師は栄養に興味がないし勉強しなくなっている。大学は臨床栄養学として教育しない。本当に、これから日本の医療界はどうなるんだろう、な。

ゼン先生：本当に大変です。少なくとも、私が教えている千里金蘭大学の栄養学部の学生は、臨床栄養学の重要性に目覚めてほしいと思って講義しています。医師は栄養を勉強していない、看護師・薬剤師は栄養に興味がない。だから、管理栄養士の君らががんばらないと、日本の栄養管理はどんどんダメになっていく。だから、がんばれ、と教えています。

小越先生：そこまでは言わなくてもいいんじゃないか？この発言を聞くと怒る人がいると思うけど。

ゼン先生：怒ってくれたらいいんですよ。そしたら、前へ進むことになりますから。

小越先生：君は変わらないな。もっとマイルドな発言をするよ

うにならないとダメだ。歳をとるにしたがって、だよ。

ゼン先生：なるほど。先生は、確かに、だんだんとマイルドな発言をするようになっておられました。

小越先生：だろう？君の言いたいこと、主張はわかる。しかし、来月で70歳になるんだろう？もっとマイルドになりなさい。

ゼン先生：そうですね。心がけます。

小越先生：心がける・・・まあ、いいだろう。

ゼン先生：最後に、8月のセミナーの広報をしたいんです。

小越先生：そうだな。大勢、参加してもらおう。

第6回Medical Nutritionist セミナー

朝からまるまる2日間 栄養管理の実践的勉強

● 日時：2024年8月3日(土曜日)午前9時から18時

8月4日(日曜日)午前9時から16時

● 場所：草津、医療研修施設ニプロ iMEP (JR東海道線 南草津駅前)

● 参加費：10000円(JAN-VIC、PEN-Leaders会員)、12000円(非会員)

(1日だけ参加の場合は会員6000円、非会員7000円)

● PEGも経腸栄養もPTEGもCICCもPICCもCVポートもエコー法もカットダウン法も挿入方法も管理方法もビデオと写真で解説します

● 基本となる静脈栄養処方原則も、経腸栄養剤の選択、感染対策も理解できます

● 本当に臨床の現場に即した内容です

● 初心者から専門的に勉強したい方まで、本気の方の参加をお待ちしております

● IPエコーを用いた、血管穿刺(PICC)のハンズオンセミナーもあります



【今回のまとめ】

1. 愛媛県へ、中学校の同窓会のために帰省しました。JR 下灘駅が観光地としてよく知られるようになっていることがわかりました。70 歳になろうとしているおじいさん、アンパンマン列車に乗ることができて、うれしかった！
2. 第 27 回 関西 PEG・栄養とリハビリ研究会は、参加者数は 101 人と少なかったのですが、いい議論ができました。もっと、この領域へ興味をもって参加して欲しい。私の卒業研究ゼミの学生 6 人が参加してくれました。勉強になったと思います。
3. 研修医向け臨床栄養セミナーで大学での臨床栄養教育についてアンケートをしました。系統だった臨床栄養学の教育は受けていないようです。
4. 臨床栄養学に関する用語の出来が悪い、悪すぎる。ほとんど知らない。「EN」が「経腸栄養」だってことくらい、知っというて！栄養管理の基本中の基本です。
5. ED も知らない。ED：成分栄養剤：エレンタールを開発したのは、小越章平先生だってこと、知らないと、本当に残念です。